

平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	ラーニング(学ぶ)・ワーキング(働く)型おぢか滞在・定住サポートシステムの構築事業
対象地域	長崎県北松浦郡小値賀町島内全域
活動概要	<p>小値賀町は、疲弊した第一次産業(主要産業である漁業の売上げが最高時の二分の一)と41%の高齢化率によって、町内中学三年生の約30%が「小値賀町内での就労」を希望しているのに対し、その機会を十分に与えることができず、20数年後には人口の半減が予想されている。しかし、島嶼は環海性、隔絶性、狭小性という地理的な要因により、外部資本注入が困難である。</p> <p>一方、ここ数年NPO法人の体験型観光による量質とももの自立的発展(売上げ約6千万円、観光宿泊者数約6千人、常勤職員8名など全て数年で3-4倍にし、町からの運営補助金を1300万円からゼロにした)という、他の離島には例を見ない目覚ましい成果を挙げ、「観光まちづくりの島」としては日本ばかりか世界からも注目浴びるにいたっている。</p> <p>その成功の大きな要因は、わずか数名の1ターン定住者による新鮮な観点からの起業的な活動、奮起にある。小値賀町の今後の地域活性化は、外部人材の誘致・活用による解決が最も重要である。現在でも「余生を島で」「子育てを田舎で」とUターン者が他地域に比べれば比較的多くをしめるものの、まだまだ島の経済を活性化させ、少子高齢化を解消するにはいたっていない</p> <p>そこで、島内での人材受け入れ側ニーズと都市住民側のニーズを明確化して、これをマッチングする仕組みを構築することで、おぢか島内に交流・滞在・定住する都市住民を獲得して行く。</p> <p>これにより、リピーター長期滞在者や定住者がもたらす集客・交流・観光的な経済的効果だけでなく、マンパワー効果により、島内でコミュニティビジネス起業、一次産業新規就業、地域活動の担い手が増えたりすることで、地域の活力を創造し、人口減少と少子高齢化に歯止めをかける。</p>
今年度の主な取組	<p><u>(おぢか島内のニーズ、プログラム開発)</u></p> <p>① おぢか島内の企業、役場、学校、NPO、地域団体、自営業、農業及び漁業者に対し、正規社員、アルバイト、有償ボランティアなどの労働力やマンパワー(人力)の顕在的、潜在的ニーズを掘り起こすために、「おぢか人材ニーズ調査」を実施して、おぢか島内で都市住民がワーキング(働きながら)滞在、定住できるニーズを明確化する。</p> <p>② おぢか島内で都市住民がラーニング(学ぶ)するため、おぢか島内の地域資源(自然、エコ、環境、農業、漁業、歴史、文化、技や知恵のある人材)と、これを話したり教えたりできる講師、インストラクターを島内外から発掘して、「ラーニングプログラムの開発」を行う。</p> <p>③ おぢか島内で、中長期的に滞在したり、定住できる空家、町営・民営住宅、現在居住しているが一部を一定期間来訪者に貸出しができる住宅、及び遊休農地について「おぢか住宅・農地活用調査」を実施し、おぢか島内の住宅・農地の受け入れニーズを明確化する。</p> <p><u>(都市住民のニーズ・欲求)</u></p> <p>④ 農業、漁業ができ、豊かな自然環境、歴史的な町並みのあるおぢか島で、下記にあげる都市住民のニーズについて、マーケティングし、分析、把握を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1泊、2泊の観光ではなく、ある一定期間農業、漁業を体験してみたい一次産業体験希望者 ・機会があれば、新規就農したい、漁師になりたい、島で働きたい就業希望者 ・夏休み期間だけボランティアとして、島の役に立つことをしたい大学生 ・島で推進している体験型観光のインストラクターになりたい若年者 ・何度となく訪れて、島の自然、エコ、環境、農業、漁業、歴史について学びたい知的欲求者 ・田舎暮らしをしたい、のんびり農業したい定年帰農、島暮らし希望者 等 <p>⑤ ①ワーキングニーズ、②ラーニングプログラム、③住宅・農地の受け入れニーズをデータベース化して、WEB上に掲載して、④の都市住民へ情報発信するための【おぢか滞在・定住サポートシステム】を立ち上げる。これにより、おぢか島内に都市住民を誘致して、人材活用していく。</p>

<p>活動結果</p>	<p>「自律的経営」を目的に、「滞在や移住」に関する総合的なサービスを行う「ワンストップ窓口」を整備し、質の高い「体験プログラム」を提供するという、地域主導のツーリズムが展開され、成果を挙げつつある。</p> <p>同時に、地域全体の課題（定住人口の維持、教育機関の維持、地域の活性化）を解消するにはまだ道半ばと感じており、これまで蓄積してきた小値賀型ツーリズムに新たな視点・発想を導入し、「交流から定住へ導く仕組み作り」と「滞在・移住希望者への支援活動」を自立的かつ戦略的に取り組む必要性を感じている。</p> <p>本事業の初年度では、基礎調査と試験的活動の実践を目標に据えていたが、町内外の主体との協働・連携、効果的なパブリシティ等により、一次産業における時期的な「人材ニーズ」（季節需要）の明確化や、都市住民マーケティング調査における「滞在・移住希望者の獲得」などといった、今後の発展的継続へ向けた具体的な効果も既に生まれつつある。</p> <p>また、持続的に地域課題を克服するためには、当然ながら短期間の単発的取り組みや自己満足的活動では何ら意味をなさない。コミュニティビジネス、社会的起業、自主自立といった精神を持つ自律組織が核となり、町内外の多様な主体と協働・連携することによって初めて、克服へのシナジー効果を持続的に生み出すことができる。その持続性こそが、「真の地域力」であるといえる。</p> <p>そのためには、都市住民と小値賀町の双方の需要を「マッチング」し、社会へ向けて労働やワークスタイル等の「新たな価値観」を発信し、都市住民の問い合わせや来島を支援する「おぢか滞在・定住サポートセンター（仮称）」の仕組みと、自律的な事業体の構築が急務であり、事業性の検証等を十分に行う必要がある。</p> <p>活動全体を通じて、島暮らし体験やワーキングホリデーの参加者数、移住を含めた問い合わせの件数が示すものは、情報提供から現地ケアまでを「トータルコーディネート」として提供するワンストップ窓口の利便性・有効性・必要性を如実に表すものである。</p>
<p>当初予想していなかった効果</p>	<p>人材ニーズ調査や都市住民マーケティング調査について、データの集積や整理が進捗し、実証実験におけるマッチング事例の数値等の具体的な成果につながっている。その成功には、「ねらい」と「テーマ」が時宜にかなっていたことや、発信するメッセージに共感できるものがあったものとも思われる。</p> <p>また、都市住民マーケティングや島暮らし体験の様子の紹介（協会ブログ、TV放映、新聞記事等）の影響により、Iターン検討者からの問い合わせ件数が急増している。</p> <p>ごく小さな課題から地域全体に関わる大きな課題まで、取組内容はその地域毎に異なるが、どのような内容であっても、取組主体（組織、個人）には自主・自立・自律への意識が強く求められる。「新たな公」として従来に無い新しい主体を地域内に創っていくためには、そうした姿勢・意識・意志こそが、課題や障壁を克服し、活動を継続させていく力の源泉になると思われる。</p> <p>小値賀町の場合、島へのIターン検討者や志望者を支援する取組みであるが、様々な情報、コンテンツ、来島時の島内アレンジ等、対象者の視点や対象者の利便性に立脚した支援を提供することを基本姿勢としている。自己満足的な活動に陥らないためには、どのような活動・目標であっても「対象」や「対象者」の視点に立脚した思考や行動が出来るか否かが一つの鍵である。</p>
<p>実施状況(写真)</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">【写真】農業系ラーニングプログラムの実証実験</p>
<p>応募団体名</p>	<p>特定非営利活動法人 おぢかアイランドツーリズム協会</p>
<p>リンク</p>	<p>nozakijima.jp</p>
<p>部局／担当者名</p>	<p>専務理事 高砂 樹史</p>
<p>連絡先</p>	<p>0959-56-2646</p>
<p>推薦市町村名</p>	<p>長崎県小値賀町</p>